



# イギリス文化研究—— 18 - 19 世紀の文学と絵画を中心として

人間文化学部 国際文化学科  
教授 天野 みゆき (あまの みゆき)

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 1816 室  
Tel 082-251-5178 (代表)

専門分野： 18-19 世紀イギリス文学、文化

キーワード： 小説、絵画、旅行記、美意識、アイデンティティ、  
フェミニズム

## ● 主な取り組み・活動

次のような観点から研究しています。

1) 19世紀イギリスを代表する作家の一人であるジョージ・エリオットと他の作家たちの作品との関連性、小説と絵画の関係性などに焦点をあてながら、18-19世紀イギリスの小説や絵画の特徴や歴史的意義を明らかにする。

エリオットは男性名をペンネームとした女性作家であり、このこと自体が圧倒的に男性優位であった19世紀イギリスの社会状況を物語る。エリオットは、イングランド中部の地方に生まれたが、やがてロンドンで類稀なる知性を発揮し、文学、絵画、科学、哲学について領域横断的に研究を続けながら、精力的に小説や詩を書いた。

拙著『ジョージ・エリオットと言語・イメージ・対話』（南雲堂、2004年）では、エリオットが特定の絵画への言及や絵画的描写によって「絵画的イメージ」を巧みに作り出している点に注目し、それらのイメージが持つ様々な意味を考察している。さらに、その背後に存在するエリオットの言語観や世界観、彼女が言語に託した希望、他の思想家や作家たち（ブロンテ姉妹やディケンズなど）への反応として創造した対話的作品世界の広がりをも明らかにしている。特に、20世紀に人文・社会科学の分野に多大な影響を及ぼした「言語が意識を構成する」という思想にエリオットがすでに到達していたこと、また、文化の個別性と普遍性を認識し、他者との共存の重要性を世界規模で

考えていたことなど、彼女の先進性には驚くべものがある。

2) 18-20世紀に書かれた旅行記にはどのような美意識とアイデンティティが見出されるか。旅行記における語りの特徴とその虚構性、および文学作品との関連性はどのようなものか。

## ● 今後の目標・抱負

研究対象とする時代と地域を広げるとともに、比較文化的視点からの研究を進めることで、現在行っている研究を発展させていきたいと考えています。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

美術館、図書館、公民館、中学・高等学校等との連携により、文学や絵画を学ぶことを通して複眼的思考を身に付け、私たちの生き方や社会の問題について考える新たな視点を発見する機会を作りたいと思います。

## ● これまでの連携事例・実績

○県立広島大学・ひろしま美術館連携公開講座  
「イギリスの作家たちが描いた猫」（2018年）  
他

○広島市立南区図書館・県立広島大学連携公開講座  
読み切り文学講座

「エミリー・ブロンテの『嵐が丘』を読む」（2018年）

「カズオ・イシグロの『日の名残り』を読む」（2016年）他